

第4回 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議

吹奏楽部の活動に係る諸経費の例 ① (高校 部員50名の場合)

～ 静岡県の公立高校吹奏楽部の事例(項目別単価)に基づくシュミレーション ～

◆① 公立高校の例

主な活動： 連盟コンクール(地区大会)1回、別団体のコンクール1回、地区のフェスティバル1回、高校吹奏楽祭1回、定期演奏会、合宿 ※標準的な例

【支出】

※以下の金額は概ね目安。地域によって若干の差異あり。

	費用項目	単価	数量 (回数)	小計	備考
1	楽器等購入代	¥10,000	10	¥100,000	小物の打楽器類、楽器スタンド等のアクセサリ、学校備品楽器の消耗部品 など
2	楽器修理代	¥10,000	20	¥200,000	基本は消耗した部品交換や不具合の修理費、過失による破損等は個人負担も有り
3	楽譜購入代 (レンタル代)	大会用	4	¥120,000	新たに購入する新譜代。大会や演奏会の楽譜はレンタルの場合も多く、3～5万円程度。小品は、Popsなどの楽譜を指す。
		小品	8	¥56,000	
4	バス代	¥60,000	8	¥480,000	市内や近距離の移動の場合の額、遠距離の場合は更に高額になる。
5	トラック代	¥30,000	8	¥240,000	大会やホール練習の時などの楽器運搬に係る費用
6	ホール練習費(会場使用料)	¥20,000	8	¥160,000	大会前、演奏会前にホールを借用して練習する場合の費用
7	演奏会・会場費(会場使用料)	¥300,000	1	¥300,000	定期演奏会など自主公演を有料で開催した場合に係る会場使用料。前日と本番当日の会場費(付帯設備費用も含む)
8	レッスン費	¥20,000	20	¥400,000	約10種類の楽器ごとに年2回、専門の講師によるレッスン費用。交通費も含む。遠距離の場合は更に高額になる。
9	合宿費	¥30,000	50	¥1,500,000	3泊の合宿を実施した場合(1泊:一人1万円)

支出合計 **¥3,556,000**

【収入】

1	部費(年間の負担額)	¥36,000	50	¥1,800,000	1人1ヶ月 3000円
2	学校で負担できる予算			¥300,000	学校の規模等によって異なる。実際はこの額より少ないケースが多い。

収入合計 **¥2,100,000**

支出合計 — 収入合計の差額 **¥1,456,000** ← 差額を何で埋めているのか？

定期演奏会のチケット収入、同演奏会パンフレット掲載の協賛広告収入のほか、部員個々にその都度、**部費以外の負担あり。**

※ 上記に含まれていない費用(支出)

- ・ 小型楽器の購入(平均20～30万円程度の楽器) ※初心者 および 中学時代に購入した楽器以外の楽器を担当した場合 大型楽器(チューバ、コントラバス、打楽器等)や特に高額な楽器(オーボエ、ファゴット、バスクラリネット等)は学校の備品を使用、中学時代に個人で購入した楽器をそのまま使う以外で、希望楽器以外のパートを担当する場合や初心者の場合、生徒個人が購入しているケースが多い。**家庭の経済状況が厳しく、楽器を買えない生徒は選択肢が限られ、大型楽器等 学校備品の楽器しか担当できない実情がある。**
- ・ 木管楽器のリード等の費用、アンサンブルコンテストや地域での各種依頼演奏に係る費用、ユニフォームなどの衣装代、
- ・ 演奏会時のチラシ等の印刷代、連盟加盟費、大会参加費、備品代 等。(マーチングも行う場合は、諸経費がさらに掛かる)

吹奏楽部の活動に係る諸経費の例 ② (中学校 部員40名の場合)

～ 静岡県の公立高校吹奏楽部の実例(項目別単価)に基づくシュミレーション ～

◆② 公立中学校の例

主な活動： 連盟コンクール(地区大会)1回、別団体のコンクール1回、地区のフェスティバル1回 **※標準的な中学校の例**

【支出】

※以下の金額は概ね目安。地域によって若干の差異あり。単価は中学校と高校は共通のため、①の事例と同じ数値で試算。

	費用項目	単価	数量 (回数)	小計	備考
1	楽器等購入代	¥10,000	8	¥80,000	小物の打楽器類、楽器スタンド等のアクセサリ、学校備品楽器の消耗部品 など
2	楽器修理代	¥10,000	16	¥160,000	基本は消耗した部品交換や不具合の修理費、過失による破損等は個人負担も有り
3	楽譜購入代 (レンタル代)	大会用	2	¥60,000	新たに購入する新譜代。大会や演奏会の楽譜はレンタルの場合も多く、3～5万円程度。小品は、Popsなどの楽譜を指す。
		小品	5	¥35,000	
4	バス代	¥60,000	3	¥180,000	市内や近距離の移動の場合の額、遠距離の場合は更に高額になる。
5	トラック代(運送費)	¥30,000	4	¥120,000	大会やホール練習の時などの楽器運搬に係る費用
6	ホール練習費(会場使用料)	¥20,000	2	¥40,000	大会前にホールを借用して練習する場合の費用
7	レッスン費	¥20,000	10	¥200,000	約10種類の楽器ごとに大会前などに年1回、専門の講師によるレッスン費用。交通費も含む。遠距離の場合は更に高額になる。

支出合計 **¥875,000**

【収入】

1	部費(年間の負担額)	¥12,000	40	¥480,000	1人 1ヶ月 1000円
2	学校で負担できる予算			¥100,000	学校の規模等によって異なる。実際はこの額より少ないケースが多い。

収入合計 **¥580,000**

支出合計 — 収入合計の差額 **¥295,000** ← 差額を何で埋めているのか？

部員個々にその都度、部費以外の負担あり。
(多くの場合は、保護者会の負担)

※ 上記に含まれていない費用(支出)

- ・ 小型楽器の購入(例:フルート、クラリネット、サクソ、トランペット等、平均20～30万円程度の楽器)

約30名(1学年10名) = **年間200～300万円を生徒の各家庭が負担して購入**

大型楽器(チューバ、コントラバス、打楽器等)や特に高額な楽器(オーボエ、ファゴット、バスクラリネット等)は学校の備品を使用している。

上記以外の小型楽器は、学校の備品の多くは老朽化しているため、生徒個人が購入している事が多い。**家庭の経済状況が厳しく、楽器を買えない生徒は選択肢が限られ、学校備品の大型楽器しか担当できない実情がある。**

- ・ 連盟加盟費、大会参加費、木管楽器のリード等の費用、アンサンブルコンテストに係る費用、備品・消耗品費(マーチングも行う場合は、諸経費がさらに掛かる)

- 特に楽器の個人購入など、家庭の経済状況に関わらず、誰もが参加可能な部活動の良さが損なわれている。
- 上記の事例は、一般的な活動の例であり、さらに活発に多数の大会やイベントに出演したり、専門の講師のレッスンを年に何回も行う場合などは、更に活動経費が増大する傾向にある。

⇒ **部活動を時間で規制するよりも、活動経費の目安を示し、主要な活動を絞っていく形の方が実効性がある。**

資料作成：ふじのくに文教創造ネットワーク 齊藤 勇 (2018.12.5)

第4回 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議

掛川市地域部活動に係る諸経費に関する資料 (H30年度：部員15名)

◆掛川未来創造部Palette

【主な活動と期間】

期間：2018年5月～11月 活動日：70日

(内訳) ① 表現の練習(音楽・演劇・放送講師のレッスン等) 40回

② アーティストの表現の鑑賞と交流 3回

③ 移動教室 12回

④ そのほか、部活運営のためのミーティング、静岡県文化プログラム関連のワークショップなど 15回

【支出】

	費用項目	単価	数量 (回数)	小計	備考
1	楽器等購入代	¥0	0	¥0	小物の楽器等の購入は無し。
2	楽器修理代	¥0	0	¥0	無し。
3	楽譜購入代	¥1,000	2	¥2,000	新たに購入した楽譜代。発表の機会に演奏した合唱曲2曲の楽譜代。(部活で購入)
4	バス代 (電車移動の運賃)	¥2,500	15	¥37,500	移動教室の時の電車代(浜松1回、静岡1回、計2回分) 15人分
5	トラック代	¥0	0	¥0	無し
6	ホール練習費(会場使用料)	¥5,000	58	¥290,000	平日2回、週末月2回の活動拠点(美感ホール、学習センター会議室・リハーサル室等)の使用料金(ピアノ等の付帯設備費も含む) ※1回使用の平均を5000円で計算
7	演奏会・会場費(会場使用料)	¥0	0	¥0	発表の機会(3回出演)は、すべて地域部活の自主公演ではなく、他が主催するイベントへの参加のため、部の費用負担は無し。
8	レッスン費(講師謝礼)	¥6,000	40	¥240,000	音楽・演劇・放送 各指導講師、鑑賞と交流プログラムの特別講師の講師謝礼(1回5000円)と交通費(1000円) ※交通費は講師の在住地によって若干の差異あり
9	公演鑑賞料(有料公演4回分)	¥4,000	15	¥60,000	移動教室での鑑賞料(有料公演・講座4回 合計4000円) ほかは全て無料または招待鑑賞。
10	保険料	¥800	15	¥12,000	保険料(スポーツや文化活動時の保険)

支出合計 **¥641,500**

【収入】

1	部費(年間の負担額)	¥0	15	¥0	部費は無料
2	教材費	¥5,600	15	¥84,000	5月～11月までの7ヶ月、一ヶ月平均一人800円。(教材費は、活動に使う教材、公演鑑賞のチケット代、移動教室の時の電車代等)

収入合計 **¥84,000**

支出合計 — 収入合計の差額 **¥557,500** ← 差額を何で埋めているのか？

H30年度は静岡県文化プログラム採択のため、文化プログラム助成金から拠出。
⇒ H31年度以降は、掛川地域全体で地域部活動を支える体制の中から活動資金を確保

※ 上記に含まれていない費用(支出)

- ・ 静岡県文化プログラムが推奨するワークショップに係る講師謝礼や旅費・交通費など(計5回) ※平成30年度のみ実施
- ・ 部員募集や各種資料などパンフレット等の印刷費(主催団体の自己負担)

資料作成：ふじのくに文教創造ネットワーク 齊藤 勇 (2018.12.5)